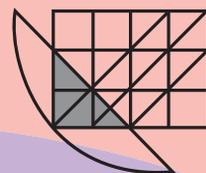


博物館だより



和歌山県立博物館

WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

No.24

2019.3

和歌山の歴史をさわって学ぶ

—さわって読む図録について—

和歌山県立博物館では、さわられる文化財レプリカやさわって読む図録によって、視覚に障害のある方が博物館を利用しやすくするための活動を継続して行っています。見える人も、見えない人も、見えにくい人も、だれもが楽しみながら和歌山県の歴史に接していただくための博物館展示のユニバーサルデザイン化の取り組みです。そうした取り組みのうち、さわって読む図録についてご紹介します。

当館で開発したさわって読む図録は、やや厚みのある紙に文字と写真をカラー印刷し、その印刷面上にUV硬化透明樹脂インクで点字や触図を盛り上げる特殊な印刷を重ねた本です。原則として見開きの片側のページに触図を、もう片方にその内容を説明した文を配置し、文章を読みながら絵の内容をさわって理解してもらおう構造となっています。

点字と墨字（点字でない文字をこのように表現します）、触図と写真を重ねて製作するため、その工程は複雑です。文章は触図を少しでも読み取りやすくなるように作り、点訳は日本点字図書館に依頼して正確さを期しています。触図部分は立体コピー（熱すると黒色部分のみ膨れる特殊な紙によるコピー）で触図化し、和歌山県立和歌山盲学校の教員に実際にさわっていただきながら修正を重ね、完成度を高めています。墨字と写真、点字と触図の両方の情報が

一冊に掲載されていますので、見える人と見えない人がいっしょに使用することができますのが、この本の大きな特徴です。平成22年度から30年度にかけて『仮面の世界へご招待』、『きのくにの祈り』、『未来へ伝える私たちの歴史』、『文化財の魅力発見！』、『世界遺産・高野山の歴史』、『絵でたどる熊野信仰の歴史』、『さわって学ぶ 仏像の基礎知識』、『道成寺縁起』、『さわって読み解く那智参詣曼荼羅』の9冊を製作し、和歌山県内のすべての図書館をはじめ、近畿圏の主要な点字図書館、盲学校、全国の主要な大学図書館や博物館などに配布して活用を図っています。他府県の博物館、美術館でも、当館と同様の方法によるさわって読む図録作りが採用されています。

なお、2019年9月1日(日)～7日(土)に開催されるICOM(国際博物館会議)京都大会でも、さわって読む図録とさわられる文化財レプリカ製作の取り組みについてアピールを行う予定です。



最新のさわって読む図録
（『さわって読み解く 那智参詣曼荼羅』）



墨字・写真と点字・触図の重なり（『世界遺産・高野山の歴史』）

特別展 仏像と神像へのまなざし

— 守り伝える人々のいとなみ —

4月27日(土)～6月2日(日)

明治元年(1868)に発布された神仏分離令は、全国で仏像や神像の安置場所の変更や、廃仏毀釈と呼ばれる仏教関係資料の破壊や散逸につながる大きな混乱を生じさせました。

その後、明治21年(1888)の臨時全国宝物取調局による寺社の宝物鑑査、明治30年(1897)の古社寺保存法の施行と国宝指定により、「歴史の証徴」「美術の模範」として保護を行う制度がかたち作られました。近代の訪れは、仏像や神像を見つめる上で歴史と美術という新たなまなざしをもたらしたのです。そうしたまなざしの転換を経て、なお、それでも仏像や神像は、寺院や神社、そして地域住民の尽力によって、信仰の対象として、

また心の拠り所として、大切に守り伝えられています。しかし近年、過疎化や高齢化などの要因により、寺社の維持が難しくなっている地域が増え、仏像の盗難被害の増加という

危機にも直面しており、これからの継承への対策が急務となっています。

この特別展では、人々を惹きつける魅力に満ちあふれた、和歌山の仏像や神像の数々をご紹介します。文化財保護法の改正、そして改元という時代の転換期にあたり、守り伝えてきた人々のいとなみに思いを馳せながら、

仏像と神像を未来へと継承していくための、これからのまなざしを考える機会といたします。



国宝 熊野速玉大神坐像 熊野速玉大社蔵



重要文化財 大日如来坐像 有田市蔵



和歌山県指定文化財 十一面観音立像 名杭観音講蔵

あつまれ！ 歴史マニア

「けんぱく・ごごもせ」 参加者募集！

県立博物館では、歴史や文化財に強い興味をもっている子供を対象に、特別な授業を昨年度に引き続き行います。県立博物館の常設展を素材として、きのくに―和歌山県の歴史や文化財について、詳しく学びます。研究の最前線にいる学芸員の話の間近に聞くだけでなく、実物の文化財にもふれることができます。

対象…和歌山県内に在学する中学生・

小学生(高学年)

定員…20人(先着)

回数・期間…7回/12月～3月の休日

13時30分～15時

会場…和歌山県立博物館

申込・問合せ…和歌山県立博物館学芸課

電話…073(436)8684

徳川家入国400年記念特別展

「徳川頼宣よりのぶと紀伊徳川家の名宝」

10月19日(土)～11月24日(日)

慶長19年(1614)～20年の大坂の陣によって豊臣氏が滅亡し、名実とも徳川氏の時代が始まります。5年後の元和5年(1619)、浅野家に代わって、徳川家康の10男である頼宣(1602～1671)が和歌山に入国し、紀伊藩初代藩主となりました。以来、紀伊徳川家は、紀伊国を中心に55万5000石の所領を有する有力大名として紀伊藩の政治をつかさどります。その一方で、紀伊徳川家は、御三家の一つとして、江戸幕府徳川將軍家の政治の一翼を担う立場にもありました。

2019年は、徳川頼宣が和歌山に入国して400年の節目の年にあたります。この記念の年に、特別展「徳川頼宣と紀伊徳川家の名宝」を開催します。展覧会開催に当たっては、当館と和歌山市立博物館とが共同で頼宣関連資料の調査を行い、その成果をご覧いただく予定です。



徳川頼宣像 館蔵



重要文化財 紺地宝尽小紋小袖(家康所用) 紀州東照宮蔵



重要文化財 太刀 銘安綱 附 糸巻太刀拵(頼宣奉納) 紀州東照宮蔵



金剛盤 館蔵



和歌山県指定文化財 縹糸威胴丸具足(頼宣所用) 紀州東照宮蔵

家康の晩年である慶長7年(1602)に伏見で生まれた頼宣は、父・家康と行動をともにすることが多かったようです。元和2年(1616)に亡くなった家康の所用品を兄義直・弟頼房とともに譲り受けました。頼宣が譲りうけた駿河御分物は、紀州東照宮に寄進されました。また、紀州東照宮や紀伊徳川家の菩提寺であった長保寺には頼宣ゆかりの品が残されており、これらも紹介します。

頼宣は、熊野三山への社参、湯崎温泉(白浜温泉)や湯ノ峯温泉への湯治などで、領内を巡覧することもあり、訪れた社寺の修復をおこな

なったり、什物を寄進したりしています。寛永11年(1635)には熊野本宮大社に金剛盤を寄進しています。

この特別展では、頼宣の母・養珠院(お万の方)、正室・瑤林院(八十姫)、頼宣の跡を継いで二代藩主となった息子・光貞、その弟で西条藩初代藩主となった頼純、こうした頼宣ゆかりの人物や頼宣に仕えた家臣の家に伝来した資料なども紹介します。こうした資料から、250年続いた紀伊藩の政治や文化の礎となった初代藩主徳川頼宣の事績を明らかにし、その実像に迫ります。

夏休み企画展

南葵音楽文庫の至宝

7月13日(土)～8月25日(日)

和歌山県立図書館と和歌山県立博物館には、紀伊徳川家16代当主・頼宣(1892～1954)が収集した西洋の楽譜のコレクション「南葵音楽文庫」の資料約2万点が、所蔵者の読売日本交響楽団から寄託されています。この企画展では、書写楽譜(作曲家の自筆楽譜を含む)や印刷楽譜の中から、とくに貴重な資料を選んで紹介・展示します。



パーセル オペラ《ディドとエネアス》(筆写楽譜)



ヘンデル オペラ《ムツィオ・シェヴォラ》(筆写楽譜)

企画展	企画展	企画展	特別展	企画展	常設展				
江戸時代の書 3月14日(土)～ 4月19日(日)	きのくに神秘の仮面 2月1日(土)～ 3月8日(日)	徳川家入国400年記念特別展 徳川頼宣と紀伊徳川家の名宝 10月19日(土)～ 11月24日(日)	徳川頼宣と紀伊徳川家の名宝 10月19日(土)～ 11月24日(日)	真景図 旅する画家が見た風景 8月31日(土)～ 10月6日(日)	夏休み企画展 南葵音楽文庫の至宝 7月13日(土)～ 8月25日(日)	高野山麓の西端で 貴志川流域の文化財 6月8日(土)～ 7月7日(日)	特別展 仏像と神像へのまなざし 守り伝える人々のいとなみ 4月27日(土)～ 6月2日(日)	企画展 国宝・古神宝の世界 熊野速玉大社の名宝 3月9日(土)～ 4月21日(日)	常設展 きのくにの歩み 一人々の生活と文化 2020年2月1日(土)～ 3月31日(火)
11月26日(火)～1月31日(金)は、展示室内照明改修工事のため臨時休館します。									
<p>和歌山県には、神事や仏事、祭礼、芸能で使用された仮面が多数伝わっています。仮面の宗教的機能に着目しながら、和歌山の仮面が語る地域の歴史とその造形的魅力を、乾武俊氏寄贈仮面コレクションの優品とともに紹介します。</p> <p>江戸時代には、藩主・武士だけでなく、農民・町人に至るまで「手習い」＝書道教育の効果が及び、またそれを漢詩文などの作品に昇華することもよく行われました。この展示では、江戸時代まきのくにの人びとの書を紹介しています。</p>									
<p>徳川頼宣が和歌山に入国して400年の節目に行うこの展示では、当館と和歌山市立博物館との共同調査の成果もふまえ、家康から譲り受けた駿河御分物をはじめ、頼宣や頼宣ゆかりの人物(母・養珠院、正室・瑤林院など)の所用品、紀伊徳川家ゆかりの寺社に残されている宝物、頼宣に仕えた家臣の家に伝来した資料などを紹介します。</p> <p>当館と県立図書館に寄託されている南葵音楽文庫の資料群(読売日本交響楽団蔵)のうち、書写楽譜・印刷音譜の重要資料を撰んで紹介します。県内の音楽教育関係者をはじめ、全国の研究者・音楽大学学生へも広報します。</p> <p>江戸時代になると、現地を旅した感動を描き出した「真景図」と呼ばれる絵が現れます。この企画展では、滋賀県立近代美術館のコレクションも迎え、紀伊半島をはじめ全国の景勝を描いた近世から近代の絵画を展示します。</p> <p>かつての高野山寺領の西端に位置する貴志川流域(紀美野町・紀の川市貴志川町)には、その地域の歴史を物語る文化財が多く残されています。近年、新たに確認された資料を含め、寺社・武士・村などの特徴的な文化財を紹介します。</p> <p>近代の訪れは、仏像や神像に歴史と美術という新たなまなざしをもたらしました。それでもなお、多くの仏像・神像は地域住民の心の拠り所として日々の祈りと営みの中で大切に守られています。改元という転換期にあたり、和歌山を代表する仏像・神像の数々を一堂に会し、さらなる未来へと継承していくためのこれからのまなざしについて考えます。</p>									
<p>三万年にわたるきのくにー和歌山県の歴史を、人々の生活と文化を主題として、七つのコーナーに分けて、時代の順にわかりやすく展示します。各コーナーには、「さわれるレブリカ」があります。なお、特別展「徳川頼宣と紀伊徳川家の名宝」の開催期間中は、常設展示を行っておりません。</p> <p>熊野三山のつととして古来信仰を集める熊野速玉大社には、天皇や室町将軍らによって奉納されたおよそ二〇〇〇点の「古神宝」が伝わります。神々に捧げられ、現在は国宝ともなっている古神宝をご覧ください。</p>									

お知らせ

◆主要な作品をイヤホン式ガイド機で解説する音声ガイドを用意しています(一般二〇〇円、高校生以下一〇〇円)。常設展については、上級コース・外国語版(英・中・韓)もあります。

◆博物館では、学校行事での利用はもちろん、職場体験やミュージアムボランティア・教員研修など、学校と連携した教育・普及活動にも取り組んでいます。詳しくは当館学芸課までお問い合わせ下さい。またホームページにも案内を掲載しています。

URL <http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>

和歌山県立近代美術館(博物館となり)の展覧会

- 企画展 「LOVE (you) LIFE! まいにちがアート」
会期 2019年4月27日(土)～6月30日(日)
- 特別展 「ニューヨーク・アートシーン」
ーロスコ、ウォーホルから草間彌生、バスキアまで
会期 2019年6月8日(土)～9月1日(日)
- 企画展 「なつやすみの美術館9 水と美術 featuring 坂井淑恵」
会期 2019年7月9日(火)～9月8日(日)
- 企画展 「時代の転換と美術 大正とその前後」
会期 2019年9月18日(水)～10月20日(日)
- 特別展 「チェコのジャポニスム」
会期 2019年11月2日(土)～12月15日(日)

博物館の利用案内

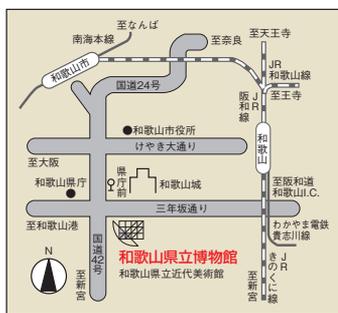
開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 月曜日(祝休日の場合は翌平日)、年末年始。展示替えや改修工事にもなると臨時休館する場合があります。詳しくは博物館までお問い合わせください。

駐車場

入館者	2時間まで	無料
	以後30分ごと	100円

※大型バスでご利用の場合はお問い合わせ下さい。

交通



JR和歌山駅または南海和歌山市駅から「県庁前」(バス停)下車、徒歩2分

入館料

〈常設展・企画展〉

	一般	大学生
個人	280円	170円
団体	220円	140円

※高校生以下、65歳以上、障害者手帳の交付を受けている方(同伴者を含む)、県内に在学中の外国人留学生は無料です。

※企画展示室の展示替え期間中は常設展示のみとなります。

〈特別展 仏像と神像へのまなざし〉

(常設展示も行っていません)

	一般	大学生
個人	510円	300円
団体	410円	250円

〈特別展 徳川頼宣と紀伊徳川家の名宝〉

(常設展示は行っていません)

	一般	大学生
個人	830円	520円
団体	680円	410円

まちなかの博物館・美術館をめぐる!

和歌山市内5館(和歌山県立近代美術館、和歌山県立博物館、和歌山市立博物館、和歌山城天守閣、わかやま歴史館)の相互割引制度がありますので、是非ご利用ください。

和歌山県立博物館 博物館だより 第24号
編集 和歌山県立博物館
〒640-8137 和歌山市吹上二丁目4番14号
TEL (073) 43618670
<http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>

平成31年(2019)3月発行